

第26回 ITS世界会議

26th Intelligent Transport Systems World Congress in Singapore, 2019

杉田 溪¹ 和泉範之¹ 牧村和彦²

By Kei SUGITA, Noriyuki IZUMI and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

ITS世界会議(Intelligent Transport Systems World Congress)は、欧州(ERTICO)、米州(ITS America)、アジア太平洋(ITS Japan)の世界3地域のITS団体が連携して、毎年共同で開催する会議である。2019年は、第26回目の会議がシンガポールにて、2019年10月21日～10月25日の日程で開催された¹⁾。

シンガポールは、スマートアーバンモビリティを促進しており、公共交通機関等の利便性の向上に取り組んでいるほか、時間帯に応じたロードプライシングを導入している都市である。アジア太平洋地域としての活動を固有のセッション(Asia Pacific)を通じて紹介するなど、多様なプログラムが組まれた²⁾。本稿では、第26回ITS世界会議の概要を報告する。

2 第26回ITS世界会議の概要

第26回ITS世界会議は、「Smart Mobility, Empowering Cities」をテーマに開催され、90カ国から約1万4千人が参加した。

第26回ITS世界会議では、シンガポールにてMaaSを体感できる乗換案内アプリ(Zipster)が紹介された。タクシー等だけでなく、メトロやバスなどの公共交通機関を付属のZipsterカードで利用できる。

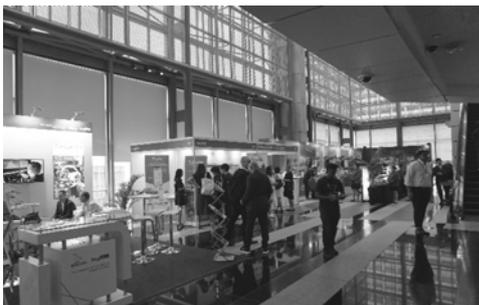


写真-1 第26回ITS世界会議会場(筆者撮影)

(1) 展示発表

展示発表には、約400の企業・団体が出展し、各国の行政機関、国際団体等によるITS関連施策の紹介や、自動車メーカー、電気機器メーカー、情報関連企業等による自社の関連技術の展示が行われていた。

展示発表では、自動運転やライドシェアリングなど新たなモビリティに関する車両展示に加え、MaaSをはじめとする交通サービス、関連するIT技術に関する展示を多く見かけた。

その中でも、中国のIT企業であるファーウェイでは、カメラを用いた顔認識システムを展示しており、カメラの前に映った来場者の性別や年齢の推定結果や直前に確認された他のカメラの番号等がモニターに瞬時に表示される。このシステムを用いて、犯罪者の追跡や治安の維持に一役買っているとしている。



写真-2 顔認識システム(筆者撮影)

(2) セッション

セッションは、以下の8つのテーマで企画され、4コマのプレナリーセッション、12コマのエクゼクティブセッション、66コマのスペシャルインタレストセッション、10コマのアジアパシフィックセッションが開催された。

1. Intelligent, Connected & Automated vehicles
(スマートな自動運転車両)

¹交通・社会経済部門 研究員 ²業務執行理事、研究本部企画戦略部長 博士(工学)

2. Crowdsourcing & Big Data Analytics
(クラウドソース及びビッグデータ分析)
3. Sustainable Smart Cities
(持続可能なスマートシティ)
4. Multimodal Transport of People & Goods
(マルチモーダルな人・モノの移動)
5. Safety for Drivers & Vulnerable Users
(運転者と事故の危険のある利用者の為の安全)
6. Policies, Standards & Harmonisation
(政策・基準および合意)
7. Innovative Pricing & Travel Demand Management
(革新的な料金収受とTDM)
8. Cybersecurity & Data Privacy
(サイバーセキュリティとデータプライバシー)

スペシャルインタレストセッションでは、個別の研究テーマについて、最新の動向や課題について議論された。第26回ITS世界会議では、会議のテーマにもあるように、ITS技術そのものだけでなく、ITS技術によりもたらされる都市やサービスのあり方についても議論され、議論の内容がシフトした印象を受けた。

特にEUでは、エアモビリティの実用化に向け、車両の開発とインフラの整備の両面から検討を行っており、タクシーや物流等への活用を見込んでいる。



写真-3 VOLOCOPTER(筆者撮影)

(3) シンガポールのMaaS

シンガポールではMaaSが発達して様々なサービスが展開されており、“Grab”、“Gojek”、“Beeline”、“Ally Explore”等がある。ここではその中でスーパーアプリとして代表的な、“Grab”について説明する。

“Grab”の機能としては、タクシーの配車、ホテルや

店の予約、対応店における支払い、自転車や電動キックボードの利用等が挙げられる。

“Grab”を用いたタクシーの配車における特徴として、乗車前に運転手の顔写真および名前、タクシーが到着するおよその時間や接近状況、利用料金がかかることが挙げられる(図-1)。

また、移動中も移動ルートおよび現在地が分かるため不当な迂回走行による過大請求の心配がなく、支払いは自動で清算されるため乗降がスムーズであった。領収書は登録メールアドレスに送付されるため紛失の心配もなく、ビジネスマンも安心して利用できる。

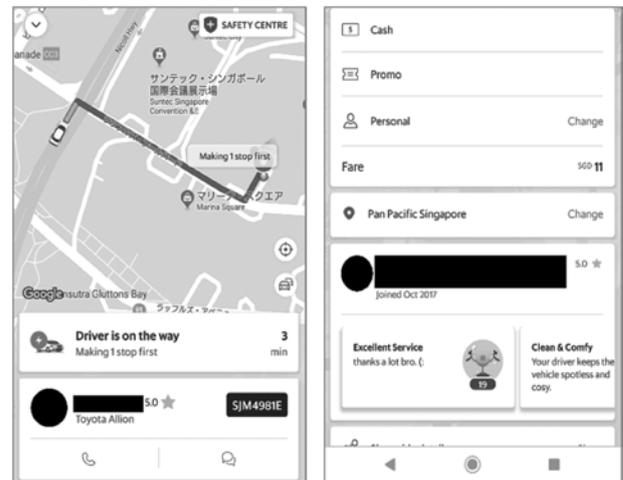


図-1 Grabアプリのタクシー接近表示(左)および事前の料金表示(右)

3 おわりに

次回の第27回ITS世界会議は、アメリカ・ロサンゼルスにおいて、2020年10月4日～8日の日程で開催される予定である。会議テーマは「New Age of Mobility」と設定されている。スプロール化する都市を活性化するために様々な交通インフラ政策や再開発プロジェクトを推進しているロサンゼルスにおいて、活発な議論がなされることが期待される。

参考文献

- 1) 第26回ITS世界会議ウェブサイト
<http://itsworldcongress.com/>
- 2) ITS Japan ウェブサイト
<http://www.its-jp.org/>